

【質問への回答】令和7年度生涯学習関係事業計画書（令和7年1月31日現在）

シート	連番	事業名	開始年度	担当課	委員からの質問	質問への回答
1-1	20	青少年教育の充実	令和5年度	生涯学習課	久喜市ホームページにもある、令和6年3月14日手渡した「今後の久喜市の青年（青少年）教育・青年（青少年）活動推進について」（提言）をふまえ今後【二十歳の成人実行委員会】を市内中学生や久喜市に暮らす高校生などに参画いただき、市民大学要綱第一条に準ずる目的をご理解頂き生涯学習活動へ主体的且つ能動的にご活躍頂く青年教育・青年育成に活かす考えはないか伺う。 郷土愛あふれる二十歳の成人式「実行委員」の活躍の集大成の一つの場を成人式ととらえた青年（青少年）教育・青年（青少年）活動の推進に活用する考えはないか伺う。	二十歳の成人式は、対象者の中から式典運営にご協力いただける「実行委員」を募集し、準備を進めています。この実行委員会は、対象者自らの手で成人式を企画立案し、運営することを目的に設置しているものになりますので、現段階では中高生に委員になっていただくことは考えておりません。 また、二十歳の成人式は、二十歳を迎える方の門出を祝い大人としての自覚を促すことを目的として開催する式典のため、式典に加えて青少年教育等の活動の場とすることは考えておりません。 しかしながら、二十歳が多く集まる本機会をいかして、市政に関する情報提供や警察署からの飲酒運転防止のチラシなどを配布していることから、引き続き周知、啓発は行っています。
1-2	40	社会人権教育指導者養成講座	平成23年度	生涯学習課	2月3日に開催された講座に参加しましたが、時間がなくてとばしとばしでの進んで残念でした。もっと時間が有れば良かったと思いますが、講座時間などについて検討して頂けますか？	今後につきましては、講師との事前確認をしっかりと行い、講師が伝えたい内容が、きちんと参加している皆様に届くよう、必要な対応をまいりたいと思います。
1-2	46	地域福祉推進のためのワークショップ	平成19年度	久喜市社会福祉協議会	（第2回久喜市社会教育委員会議において）令和6年度にワークショップを開催していない理由は？	地域福祉計画・地域福祉活動計画の策定に合わせて、ワークショップを実施しています。令和4年度に計画を策定したことから、令和6年度ではワークショップを実施しませんでした。 前回の地域福祉計画・地域福祉活動計画の策定時におけるワークショップでは、福祉委員、地域活動者、地域住民など、参加者を限定せずに広く募集の上、実施しました。
1-3	56	図書館自主事業の充実	令和元年度	生涯学習課	「図書館4館」とあるが、市民は「4館」では具体的に思いつかない。「久喜市民全員が4館を理解している」と思い込んではいないのか。なぜ「4館」と記載するか伺う。	「図書館4館」については、「中央図書館、菖蒲図書館、栗橋文化会館図書室、鷺宮図書館」のことですが、今後できるだけ誤解のない、また分かりやすい表記となるよう努めてまいります。
1-3	68	共同オンライン分教室（KDX教室）	令和4年度	指導課	計6名の生徒に対して行われたオンライン授業の出席率はいかがであったか。またその参加率向上を目指す新たな「仕掛け」はあるか伺う。	出席率は72.2%です。 久喜市では不登校生徒一人ひとりにとって最適な支援がなされるよう、幅広い学びの機会の選択肢を用意しています。共同オンライン分教室は選択肢の一つですが、その出席率を向上させることよりも、不登校の背景や原因についての継続的なアセスメントのもと最適な支援をしていくことに重点を置いております。

【質問への回答】令和7年度生涯学習関係事業計画書（令和7年1月31日現在）

シート	連番	事業名	開始年度	担当課	委員からの質問	質問への回答
1-3	72	学習情報の提供	昭和63年度 (推定)	生涯学習課	「久喜市民大学公開講座」に、まなびすとカレッジ生徒以外の市民が何人受講したか伺う。 「オープン高大」にスマイルキャンパス生徒以外の市民が何人受講したか伺う。 その参加された人数が募集人員に対する申込人数のものになってはいないか伺う。 情報提供「方法の改善策」と、定員人数が集う「必要とされる内容の工夫」を伺う。	市民大学公開講座、オープン高大は、市民大学、高齢者大学の学生だけでなく、市民が参加できるように公開しているものです。 それぞれ市ホームページと広報くきで講座について周知しました。 令和7年度では、そのほかの周知方法について検討します。 オープン高大 テーマ及び参加者 第1回 令和6年6月26日（水曜日） 【講座】「埼玉県の偉人 下総統一」 募集定員15人に対し、13人が参加しました。 第2回 令和6年8月30日（金曜日） 【講座】「久喜市ゆかりの作家 中島 敦」 募集定員15人に対し、6人が参加しました。 第3回 令和6年9月25日（水曜日） 【講座】「論語を学ぶ」 募集定員15人に対し、12人が参加しました。 第4回 令和7年1月31日（金曜日） 【合同教養講座】「定年よ 大志を抱け！」 募集定員30人に対し、10人が参加しました。 市民大学公開講座については、別添のとおりです。
1-3	73	農業体験、料理教室等の開催	平成11年度	農業振興課	1999年から26年続いたのには理由と要望がある。農業や農村の理解促進を図る目的を達成されたといえる理由とその事象を伺う。	本事業は、菜園教室や学童農園を通じて、参加者が土や農作物に触れ、農業や農村への理解促進を図ってまいりました。 具体的には、菜園教室においては、基礎的な栽培技術の習得により、家庭菜園での栽培やしみん農園の利用促進につなげ、学童農園においては、さつまいもの収穫体験を通じた、食育の推進に結び付けてまいりました。 この度の見直しにより事業自体は廃止となりますが、しみん農園の管理・運営は引き続き行い、栽培に関する基本的な知識や疑問点などに対しては、市を通じて、JAや県の技術普及員等に確認するなど、継続的なフォローを行ってまいります。 また、学校給食での地元産農作物の利用により食育の推進を図るなど、本事業以外のアプローチにより、農業や農村のさらなる理解促進に向けて取り組んでまいります。
2-1	86	認知症サポーター養成講座	平成23年度	高齢者福祉課	今現在認知症患者はおおよそ久喜に何名ぐらいいるか伺う。 ・その家族は何世帯あると想定しているか伺う ・6名と10名がサポーター養成出前講座参加とあるが定員など設定から十分な人数か伺う ・参加を増やし成果を高める新たな仕掛けや募集の工夫はあるか伺う	認知症患者数およびその家族・世帯数は把握しておりません。埼玉県認知症施策の推進によると埼玉県内の後期高齢者数及び認知症高齢者数を推計しております。それに合わせて久喜市を推計しますと後期高齢者の人数は（75歳以上）26,598人となりそのうちの高齢者の5人に1人が認知症になる数をかけ合わせますと約5,300人が認知症高齢者になるのではないかと見込まれます。 ・認知症サポーター養成講座の講師派遣は原則10人以上の団体・グループに対して行うことになっておりますが、誰もがなる可能性のある認知症という疾患についての正しい知識の普及啓発のため、たとえ少人数であっても開催すべきと考えております。今回は出前講座の希望があったのが2件でした。 ・生涯学習課の出前講座以外に、市で実施しているほか、社会福祉協議会に委託している分も含めると、令和7年1月31日現在では、604人のサポーターを養成しております。 ・実際に身近な人が認知症になったときに後悔しないよう、元気な高齢者の集まりの団体に声をかけていきたいと思います。また、小・中・高校生やその父兄の方々にもお時間を作っていただき、認知症を理解し、その対応の仕方を学んでいただけるよう学校にも声をかけていきたいと思います。
2-2	97	市民まつり	昭和63年度	商工観光課	市民まつりの会が「解散」された現段階における貴課の「評価」と「原因」の検証結果を伺います。「98：菫蒲産業祭の会（仮称）」や「99：コスモスフェスタの会（仮称）」が貴課から見て次年度継続されるその違いや理由、優れた点を伺う。	市民まつりの会の解散は、担い手の不足と高齢化によるものと伺っています。久喜市菫蒲産業祭実行委員会およびコスモスフェスタ実行委員会については、現状、各イベントを継続できる人員状況であると認識しています。

【質問への回答】令和7年度生涯学習関係事業計画書（令和7年1月31日現在）

シート	連番	事業名	開始年度	担当課	委員からの質問	質問への回答
2-2	101	赤花そば栗橋やさしさときめき祭り	令和2年度	栗橋行政センター 地域振興係	「97:市民まつり」「98:菖蒲産業祭の会」や「99:コスモスフェスタの会」の内容で「生涯学習活動への誘いの場を設定します。」とあるが、商工観光課や参加者や運営者の方々と「共有」されている「工夫」があれば伺う。 別に商工観光課と違うと自負できるオリジナルでの誘いの場の設定を伺う。	赤花そばの育成状況をブランターや写真パネルで解説し、地元農業の紹介をしています。 令和6年度から移動図書館車を祭り会場内に配置し、図書館事業の啓発の場を提供しました。
2-3	116	学校応援団コーディネーター研修会	平成22年度	指導課	久喜市学校応援団推進事業実施要領にある「目的」を研修会に参加できなかった延べ一万二人に対して、また日々活動の中でガバナンスの一つとなる「目的」をより深くご理解いただく仕掛けや工夫はあるか伺う。	当研修はコーディネーターを対象にしているものです。学校支援の活動を行ってくださる延べ1万人を超えるボランティアに対して各校配置のコーディネーターが研修内容を伝達し、学校応援団の目的についても共有いただいているところです。令和7年度においても、引き続き各校ボランティアに伝達・共有していただけるようコーディネーターに依頼してまいります。
3-1	129	市民参加の推進	平成24年度	市民生活課	「若い世代の参加が少ない」と評価されていますが、数多くの生涯学習事業共通の課題であるなか、久喜市が検証した改善策を伺う。 また成果にある「市民参加推進員」(まちづくりサポーター)の具体的説明を伺う。	令和6年12月14日に「市長と若い世代との座談会」を実施し、8名の大学生と市長が4つのテーマ(久喜市の魅力、ふるさと納税、官民連携等)について意見を交換しました。いただいた意見等は全職員に共有し、各事業に生かすよう周知しました。 若い世代の市民参加の促進を図るとともに、市政への市民参加の機会を創出し、多様な市民の意見等を市政に反映させるため、令和7年3月中に、16歳以上の市内在住者から無作為に抽出した約700人に市民参加推進員(まちづくりサポーター)への登録をお願いする文書を送送する予定です。 市民参加推進員(まちづくりサポーター)には、月に1回程度、市民参加に関する情報をメールでお知らせし、興味があるものに自ら参加していただいたり、家族や友人等、周りの人に共有していただきます。13歳以上の市民(在住、在勤、在学)どなたでも登録できます。
3-2	141	総合型地域スポーツクラブの創設支援	平成22年度	スポーツ振興課	「創設支援」が事業名であるが、ふたつの総合型スポーツクラブは「どこで」「何を」どれくらい「規模」でどのような成果を上げているのか伺う。 また次年度も「創設支援」をいくつまで拡大するのか「理想」のカチとその理由を伺う。	○クラブの活動内容について ・スポーツコミュニティ久喜・久喜駅東口においてソフトテニスやダンスなどを中心に活動しています。 ・サンワ×エナジークラブ久喜支部:市内全域においてソフトテニスを中心に活動しています。 ○創設支援の展開について 総合型地域スポーツクラブの活動範囲は、国において「中学校区」単位が理想とされており、更なる増加を図っていく必要があります。 今後も引き続き市ホームページ等で制度の周知を行うほか、日本スポーツ振興センターや県スポーツ協会などの支援機関との調整などを通じて創設支援を継続していきます。
3-2	143	情報インフラの整備	令和4年度	情報推進課	公共施設21施設とあるが全部でいくつ必要でその必要数をどれくらい満たしているのか。 また、新設・増設が必要になる事象や基準はどのような状態か伺う。	現状においては、100%整備しております。 公衆無線LANにつきましては、久喜市公共無線LAN整備指針に基づき、整備を行うこととしております。 原則新規に整備される施設において設置の検討を行っており、既存施設におきましては、業務主管課からのアクセスポイント設置又は個別SSID開設に係る協議を受け設置目的、効果等を踏まえ検討を行うものとしております。 費用を伴うものであるため、必要施設数や必要設置数、事業については定めていないところであります。 なお、設置の基準につきましては、設置目的や整備状況等を勘案し、決定するものとしております。
3-2	149	公民館事業の充実	平成22年度 (推定)	生涯学習課	7事業89人、7事業81人と公民館運営委員の人数と、成果指標となる参加人数が比例しておらずバラツキがあるが、その差、理由をどう評価し、改善・対策するのか伺う。	青葉地区及び菖蒲地区は、多くの参加者が見込める体育祭事業が、国政選挙会場のため開催できなかったこと、令和7年1月31日時点では公民館まつり(事業発表会)が未開催であることから、他地区と比較して参加者が著しく低い結果でした。

【質問への回答】令和7年度生涯学習関係事業計画書（令和7年1月31日現在）

シート	連番	事業名	開始年度	担当課	委員からの質問	質問への回答
4-3	199	PTA活動の充実	平成21年度 (推定)	生涯学習課	任意団体であるPTA活動の活性化を支援します。とあるが、久喜市PTA連合会を、と明記されていないが「子どもの健全な成長を支援します」とあるが子どもに近い「単位PTA」の支援はかなり必要と考えるがどのような目的と手段・方法での支援か伺う。 また、事業開始年度は「令和3年度」は誤りでないか伺う。	「単位PTA」活動を活性化するため、「単位PTA」が行う事業の家庭教育学級を支援しています。家庭教育学級の支援が始まったのは推定ですが平成21年度です。
4-3	203	コミュニティ協議会運営事業	平成22年度 (推定)	市民生活課	4地区は旧一市三町か伺う。 13団体とは小学校通学区であれば21小学校であるはずだが13の理由はなにか。 自主的活動を行う地域任意団体であるならば財政的支援は理解できるが「事務的支援」を行うのはなぜか伺う。 災害発生時の避難所運営の受け皿としての活躍の期待が望まれる意味合いがあるのであれば「名は体を表す」わかりやすい名称にしない理由はどのような都合のよさがあるのか伺う。	4地区は久喜・菖蒲・栗橋・鷺宮の旧一市三町です。 地区コミュニティ協議会は、小学校通学区単位で活動する任意団体ですが、地域の実情により、地区コミュニティ協議会を設置していないところもあります。 事務的支援については、市で事務局を担っているコミュニティ推進協議会(4地区)について行っており、地区コミュニティ協議会については、自主的に活動をしています。 コミュニティ協議会は防災に限らず、防犯活動、地域の交流のための場づくり等、誰もが住みやすいまちづくりを目指し、地域の実情に応じて様々な活動をしています。このようなことから、コミュニティ協議会という名称にしています。
4-3	205	地域子育て支援事業	平成20年度 (久支セ) 平成18年度 (栗支セ) 平成24年度 (鷺支セ)	子育て支援課	開所日が208日で同じ65事業、62事業、53事業一番少ない事業数であるところが延べ人数が多いのも興味深い。 各センターの支援メニュー内容に大きな違いはないはず。人をひきつける魅力やちょっとしたポイント深く検証し「まなびすとカレッジ」や「スマイルキャンパス」に生かせるよう研究し、のちの【生涯学習活動への誘いの場を設定】し未来のボランティアの卵としてまた、子どもたちへ子育て楽しい背中を見せられないか伺う。 さらに「久喜市子育て女子ハイスクール(仮称)」完全保育受け入れ子連れでの生涯学習、子育てママ、パパお楽しみ生涯学習事業を設けられないか伺う。	【子育て支援課】【生涯学習課】 子育て支援センターは、育児の相談及び指導、子育てサークル等の育成及び指導、地域の保育資源の情報提供を実施している施設です。 久喜子育て支援センター、栗橋子育て支援センター、鷺宮子育て支援センターでは、未就学児及びその保護者を対象とした事業をそれぞれ企画、実施しています。 センター及び事業は、市内在住者だけでなく市外在住者も利用、参加できます。このため、事業の内容やセンター周辺地域の子育て世帯数に加えて、施設の立地条件や交通の利便性が各センターの利用者数に関係していると推察します。 「生涯学習の誘いの場の設定」については、前述のとおりセンターの利用者を原則として未就学児とその保護者とし、育児等の支援を目的に開所していることから、センターの利用目的に当たらない団体等を主とした学びの場とすることは考えておりません。 一方で、施設内での掲示など、子育て世帯に関する生涯学習事業の情報提供は可能と考えていることから、周知内容、方法や時期について、今後子育て支援課と検討していきます。